

成田市文化財審議委員会会議録（令和元年度 第1回）

1-1 開催日時 令和元年7月11日（木） 午前10時から午前11時

1-2 開催場所 成田市花崎町760番地
成田市役所議会棟3階 執行部控室

2 出席者

(委員) 小倉委員長、木村副委員長、濱島、飯嶋、宮下、吉岡、高木、白井各委員

(事務局) 関川教育長、石毛担当次長、神崎生涯学習課課長

中山、菊地、小川、井出

(傍聴者) なし

3 委員長、教育長挨拶

4 報告

4-1 令和元年度の文化財関係事業、予算について

概要

令和元年度の文化財関係事業および予算について説明。

質疑応答

高木委員

旧滑河小学校跡地利活用の項目があるが、成田市内の埋蔵文化財遺物をすべて移動させるのか。

事務局

予算項目には旧滑河小学校のみが記載されているが、旧高岡小学校も移動先に含まれており、この2校に集約する予定。

4-2 埋蔵文化財の照会状況、発掘調査について(平成31年3月～令和元年5月)

概要

民間事業に伴い照会された件数40件の内、12件が埋蔵文化財包蔵地に含まれる。

市内遺跡として扱ったものは0件。

千葉県教育振興財団が圏央道建設に伴い行った調査0件。

印旛郡市文化財センターによって行われた調査1件。

千葉県立房総のむらによって行われた調査1件。(上福田岩屋古墳)

実際に上福田岩屋古墳の調査を行った房総のむら白井委員による説明

房総のむらで今年度開催される秋の企画展の関連で上福田岩屋古墳の石室を 3D 計測するのに伴い石室内に堆積していた土砂を取り除いた。これまで堆積していた土砂のために石室の床の構造が不明であったが今回の調査で以下のことが判明した。

- ・床一面に石を敷いており、全体を三分割にする仕切り石が確認された。真ん中は通路、両脇は遺体を置く部分と考えられる。
- ・入り口部分は二段になっている。
- ・第二次世界大戦中は弾薬庫、防空壕として使用されており、副葬品はほとんど確認されなかった。釘が出土しており、棺に使ったものと考えられる。

また、石室の外側に関しては必要最小限の調査にとどまったが、以下のような成果が得られた。

- ・扉石が出土した。
- ・入り口部分に石が敷かれており、羨道部であると考えられる。
- ・入り口部分を横方向にボーリングしてみると入り口部分が広がる可能性があることが分かった。

龍角寺岩屋古墳の石室は木下貝層の砂岩を切り出して石室を作っており、上福田岩屋古墳も同様の石を使用している。加工しにくい砂岩を切り、積み上げ、研磨しており非常に手の込んだ造りとなっている。石室が天井部に行くにつれ狭くなる特異な構造をしており全国的にみても珍しい。これらは九州、紀伊半島の一部に確認できる石室であり、渡来人との関係も考えられている。成田市内でも現存する貴重な石室であり市の指定に向け動いてほしい。

質疑応答

吉岡委員

今後さらに調査するとしたらどのように調査するのか。

白井委員

石室の前で葬送儀礼を行うための前庭部が確認できる可能性があるなのでその調査を行う。祭祀に使った土器などが出土すれば、時代と儀礼内容が分かるので古墳の学術的価値もさらに上がるのではないかと。

吉岡委員

木下貝層の砂岩を使用した石室は多いのか。

白井委員

上福田岩屋古墳の石室のような貝が混じっているものは限られている。

龍角寺古墳群の中には龍角寺岩屋古墳のような方墳(四角い古墳)があり、いずれも 7 世紀

に入ってから(古墳時代から飛鳥時代への過渡期)の古墳になる。貝混じりの砂岩は龍角寺古墳群の中でも先ほど挙げた方墳に限られ、古墳群全 115 基の中で 7 基しか存在せず、他には印西市に 2 基あり、現在 9 基確認できている。

宮下委員

全ての発掘調査を終了してから指定するのではなく、指定してから発掘調査を行ってはどうか。全部調べてからでは時間がかかる。

飯嶋委員

古墳の大きさは。

白井委員

38m。ただしこれは墳丘のみの大きさであり、古墳を巡る溝の範囲が分からないと正確な大きさはわからない。指定範囲にもかかわってくる。

宮下委員

まずは古墳を指定し、随時追加していくのはいかがか。

木村副委員長

土地の所有者は。

白井委員

共有地である。周溝の部分は個人。

小倉委員長

指定については審議委員で一度見に行きたい。

4-3 指定文化財、登録文化財の候補について

概要

白井委員に説明していただいたとおり上福田岩屋古墳は全国的にみても非常に貴重な古墳である。審議委員の方々からも推薦の声が出ていることから、事務局としても今後、委員の方々の意見を聞きながら市の指定文化財にしていく方向で行きたいと考えている。

登録文化財候補として三里塚小学校の赤レンガ門、川豊本店がある。

・三里塚小学校の赤レンガ門

旧陸軍鉄道第二大隊が演習訓練のため軽便鉄道を敷設するため、大正 2 年(1913)に千葉と三里塚を結ぶ軽便鉄道を敷設する際に三里塚に駐屯する兵舎の門を、三里塚小学校に移築したものといわれている。

レンガ門の類例として千葉工大の門柱が挙げられ、これは登録文化財となっている。

赤レンガ門は昨年のお阪の地震を受け、取り壊しのお話も出たが市の内部で検討した結果、その歴史的価値(成田の鉄道史、希少なレンガ造りの建造物)からも補強して残すこととなった。門柱は、補強の際に一度解体して内部構造を変えるため、登録有形文化財を目指す。

・川豊本店

川豊本店は成田に現存する一番古い三階建て建物である。建築当初の目的は不明であるが、大正 15 年に 3 階建てになり、昭和 42 年に現在のウナギ屋さんになった。現在参道には大野屋旅館などが登録有形文化財としてあるが、それらに追加される形となる。登録文化財現在にするため申請中である。

4-4 その他

事務局

審議委員会の任期が今年のお 9 月 30 日までなので、引き続きお願いしたい。今後個別に依頼していく予定。

高木委員

宗吾二丁目の開発計画について。

事務局

昨年度確認調査を実施し、墳丘が失われているものも含め 10 基の古墳が確認できた。約 14,000 m²が本調査対象範囲となり、馬型埴輪が出土している宗吾飯仲古墳群 5 号墳は墳丘を保護する予定。

高木委員

宗吾飯仲古墳群第 5 号墳の墳丘を保護するとのことであるが周溝はどうするのか。

事務局

工事の工程上、周溝の保護は不可能なので調査を実施予定。保護できるのは墳丘のみ。